

黄城

Ojo News Letter Vol. 40

CONTENTS

特集黄城人 創立110周年記念講演会	2
会長挨拶・母校の近況	5
合格だ！優勝だ！	6
各支部総会報告	8
卒業50周年を祝う	10
後輩からの一言	11
クラス会便り・トピックス	12
黄城会総会を終えて	14
役員一覧・物故者・寄贈	15
事務局より	16

発行▶平成22年7月1日

発行所▶黄城会

発行人▶岩松 要輔

印刷▶株式会社印刷

特集黄城人

小城高校創立110周年
記念講演

二十一世紀の課題

吉村 久夫氏

東京佐賀県人会会長 元目経BP社 社長

リニューアル第2号の小城高校黄城会会報黄城（通算40号）の巻頭特集「黄城人」は、長年日本経済新聞の記者として国内外で活躍されてきた黄城会関東支部長（東京佐賀県人会会長）の吉村久夫さん（高校第6回卒）の登場です。昨年、小城高校で行われました小城高校創立110周年記念式典の際に行われました記念講演です。題して「21世紀の課題」、大先輩の体験に基づいた講演をじっくり、読んでみませんか。



はじめに

皆さんお早うございます。小城高創立110周年、まことにおめでとうでございます。私は昭和29年に本校を卒業しました。妻も私の2年後に本校を卒業しました。本日、記念講演を仰せつかり、大変光栄に思っております。

本日、私がお話ししたい内容は4つに分かれております。まず、最初に、僭越ながら、私自身の体験と得た教訓をお話しさせていただきます。次に本題である「21世紀の課題」は何かというお話をします。3つ目に、課題解決の鍵を握るのは技術と人であるというお話をします。最後に、課題解決の主役は若人であるというお話をいたします。

3つの教訓

私は大学卒業と同時に日本経済新聞に入社しました。当初は証券部という株式市場担当の部に配属されました。私は新聞記者は朝が遅いと期待していましたが、証券部は朝が早いのです。私は経済学など概論しかやっていませんから、できれば政治部か文化部に行きたかったのです。最も行きたくなかったのが証券部でした。

しかし、結果からいえば、これがよかったのです。生きた経済を勉強するには株式市場はもってこいでし

た。後に私は経済部や産業部などを経験しましたが、経済記者の基礎を作ってくれたのは、この証券部時代でした。「人間万事塞翁が馬」です。人生なにが幸いするかわかりません。仕事を選び好みしてはならないことを学びました。

入社8年後、経済部へ異動になりました。当時、日本は資本自由化に踏み切るかどうかで大騒ぎでした。そこで欧米の実情を取材して一面に連載しようということになりました。指名されたのが当時財界担当だった私と通産省担当の青木記者でした。昭和42年5月と6月、欧米を取材して回り、現地から原稿を送りました。幸い好評でした。私達の結論は、日本は資本自由化をして国際競争の洗礼を受けるべきだということでした。

私達の欧米取材旅行は、1つのテーマを追って海外を取材し、現地から原稿を送るというロービング取材のはしりになりました。私も青木記者も海外取材は初めてでしたから、どんな結果になるか、もう当たって砕けろという心境でした。2人ともまだ31歳でした。この海外取材旅行で、思い切って挑戦すればなんとかかなる、挑戦しなければ何も生まれぬ、という教訓を得ました。

その後、私はニューヨーク特派員や日経ビジネスの編集長、日経産業

新聞の編集長などを歴任しました。いろいろな事件を経験し、いろいろな人物に会いました。大変勉強になりました。ある時、ホンダの創業者である本田宗一郎氏に「頭がいい人とはどんな人か」と尋ねたことがあります。答えは、「愛される人」でした。どんな秀才でも一人の知識、知恵には限りがあります。誰もが知識や知恵を貸したくなるような、愛される人物こそ賢い人だということです。まず自らを磨くことが大事だという教訓を得ました。

3つの危機

本題の「21世紀の課題」に入ります。有名な米国の経済学者ケネス・ボールドイニングが半世紀前に『20世紀の意味』(岩波新書)という本を書いています。この本の中で彼は人類は第2の大転換期に差ししかかっていると指摘しました。第1の転換期は5千年か1万年前の文明前社会から文明社会への転換でした。第2の転換期は文明社会から文明後社会への転換だということです。彼はこの大転換に失敗すると、人類は破滅するかも知れないと警告しました。

私はいま世界は3つの危機に直面していると思っています。それは経済の危機、環境の危機、道義(モラル)の危機です。この3つの危機が取りも直さず21世紀の課題です。1

つ間違えば、人類は破滅し、地球は破壊されてしまいます。まさに人類の叡知が試されているのです。

まず、経済危機の話をしします。ご承知のように、100年に一度ともいわれる不況が襲ってきました。時間の関係で詳しい説明はできませんが、要するに、オイルダラーに代表される過剰な資金が投機資金となって世界中を駆け巡って金融危機を引き起こしたのです。その根底には、ひたすら儲けを追求しようと言う資本の「強欲」と、金融工学を駆使したら大丈夫だという人間の「過信」がありました。直下型の地震にも譬えられる今回の不況はひとまず底入れしたといわれていますが、まだ大きな余震が起こる可能性があります。

80年前の世界大恐慌は結果として、独裁者ヒットラーを出現させ、第2次世界大戦を引き起こしました。一步間違えば、今回もそうした落とし穴に嵌まってしまうおそれがあります。幸い、今のところ各国とも自由主義と国際協調体制を堅持しています。

次は環境の危機です。過去50年に世界の人口は2.4倍、食糧、鉄の消費は4倍、石油の消費は7倍、電力の消費に至っては21倍になりました。化石燃料の大量消費によって温暖化が進み、地球は悲鳴を上げています。いまや地球が2つ必要だといわれています。幸い、これもいま各国とも温暖化防止に向けて走りだしています。あまり協力的でなかった米国も、オバマ新大統領が登場し「グリーン革命」を打ち出してきました。

3つ目は道義の危機です。テロリズムが横行し、北朝鮮にみるように核拡散の危険度も増しています。安全なはずの日本でも白昼、往来に殺人魔が出現する始末です。3つの危機は相互に関連しています。世界は我欲に走って自制心を失ったのです。

今日のようなモラルの喪失は、実はつとに先人たちが警告していたことでした。例えば、英国の経済学者アダム・スミスは、経済活動には正義が必要だと条件をつけていました。ドイツの社会学者マックス・ウェーバーは、資本主義の最終段階で「精神のない専門人」が出現すると予告していました。マネーゲームに狂奔した金融の専門家がまさにそれです。日本にも賢人がいました。石田梅岩です。彼はアダム・スミスよりも37年も前に、『都鄙問答』という本を著し、市場機能の素晴らしさを指摘しました。そして彼もまたこの本の中で、売り手も買い手も使い手も三者が共に得をする大事であり、商人にも武士道と同じように商人道が必要だと唱えていたのです。

2つの解決策

さて、3つの課題の解決策はなんでしょうか。幸い、各国の首脳たちは、ネットワーク社会になり、相互依存の世界が出現した以上、国際協力が欠かせないと認識しています。そうした認識の下に、主要国は次のような方策を打ち出しています。経済の危機に対しては、財政金融政策をフルに活用しています。また、行き過ぎた自由には歯止めをかけよう

としています。環境の危機に対しては、温暖化削減の目標を立てて競い合おうとしています。各国とも低炭素社会、循環型社会の実現を標榜しています。道義の危機の対しては、核拡散とテロの防止、それに教育の必要性を叫んでいます。

世界が課題解決に向けて動き出していることは確かです。ですが、これで十分でしょうか。私は十分ではないと思います。経済危機についていえば、いまのような通貨制度で果たしてバブルの再発を防げるか、疑わしいと思います。環境危機についても、人々は本当に省エネのための生活革命を行うだろうか、疑わしいと思います。核拡散の危機を一掃するのも核保有国が思い切った行動を取らなければ、難しいでしょう。

そこで、私は根本的な解決策というのは次の2つだろうと考えます。

1つは、イノベーション、つまり技術革新です。これにはハードつまり製品とソフトつまり制度の両面があります。つまり、新しい技術や新しいシステムです。いま1つは、人材の開発、つまり教育です。学校教育だけに限りません。家庭教育、企業教育、社会教育のすべてが含まれます。



決め手は人

21世紀にふさわしい技術や制度を作り出すのは人です。日本の唯一最大の資源は人です。日本人はi P S細胞を使った再生医療をはじめ、いろいろな分野で新しい試みに着手しています。しかし、うかうかしていると、外国に抜かれてしまいます。太陽電池など、かつては日本が進んでいましたが、いまではドイツに抜かれてしまっています。日本人は優秀だといわれます。しかし、外国人も優秀です。私は3年ほど前、中国の清華大学で客員教授をして、そのことを痛感しました。

人材開発は制度の完備も大事ですが、未来への展望の有無が大事です。日本はいま残念ながら迷走しています。自由と規律、権利と義務のバランスが崩れがちで、政治は衆愚政治に陥りがちです。人口が減少するという歴史的転換期に国の大きな目標を描き切れないでいます。これでは若者たちは未来への展望を持ちにくいでしょう。

日本は今後どんな道を進めばいいのでしょうか。明治以来の日本の立国の理念を見てみましょう。まず「富国強兵」でした。軍国主義の道を歩みました。結果は敗戦でした。次に「所得倍増」を掲げました。いわば経済主義です。世界第2位の経済大国になりましたが、結果はバブルの崩壊でした。

いま私は、「美国健民」を国是にすべきだと考えています。いわば人間主義です。山紫水明の美しい日本を再現し、その中で人々が心身ともに健康に暮らすという国です。先に紹介しましたボールデイングは、日本は江戸時代という平和で循環型の持続的社会を作った貴重な国だと指摘しています。日本は「美国健民」の先進国になれる要素を持っている国だと思います。そうなれば、日本は世界から再び尊敬されるでしょう。

21世紀の主役

いよいよ最後の若人の話になりました。21世紀の課題を解決するのは結局のところ人です。肉体は有限ですが、知恵は無限です。そして主役を演じるのは若者たちです。佐賀の大先輩、大隈重信が後年こんなことをいっています。「明治維新は薩長や公家がやったのではない。やったのは全国の青年書生たちだ。彼らが国の危機を感じて立ち上がって空前の偉業を成し遂げたのだ」。いつの時代も革新の担い手は若い世代なのです。

臨済宗を開いた臨済禅師のことは「随所に主となれば、立つ処すべて真なり」というのがあります。私はこれを、どんな境遇、仕事でも、自分が主役になって責任を果たさなければならないと努力すれば、自ず道が開けるといふふうに解釈しています。明治維新の青年書生たちは、自分たちがやらなければと、命を投げ出したのです。まさに主体性を発揮したのです。

現代の帝王は一般大衆です。であるなら、昔、帝王が「帝王学」を学んだように、人々は現代の「帝王学」を学ばなければなりません。江戸末期の漢学者で幕末の志士たちの師ともいわれた佐藤一斎は、人の一生は

勉強だといっています。学生である皆さんが若い頭脳を生かして勉強するのは当然です。同時に中高年も勉強しなければなりません。東京佐賀県人会では隔月に「知新会」という勉強会を開いています。

皆さんがこの世に生まれるまでには、気の遠くなるような沢山の先祖が存在していました。ですから、かけがえのない命を生かすために、世のため人のために十分に生きなければなりません。人の価値を決めるものは学歴でも職業でも地位でもお金でもありません。人の価値は、志を持っているか、自分なりの判断基準を持っているか、挑戦する勇気があるか、で決まると思います。

インターネットでいろいろな情報が瞬時に手に入る便利な世の中になりました。しかし、情報を取捨選択する判断基準がないと、情報の洪水に流されて、付和雷同の日々を送ることになります。自分なりの判断基準を持つには、本を読み、見聞を広め、体験することです。その上で自分の頭で考えることです。考えるだけではだめです。志を立てて挑戦しましょう。皆さん、主体性を持って挑戦しましょう。皆さん1人1人の考えや行動が21世紀を左右することを、どうか忘れないで下さい。

PROFILE

吉村 久夫 (74歳)

小城高校 昭和28年度卒 (高6回)
東京佐賀県人会会長

昭和33年3月、早稲田大学第一文学部を卒業と同時に日本経済新聞社へ入社。その後、ニューヨーク特派員、日経ビジネス編集長、日本経済新聞編集長などを歴任、最後は日経グループの雑誌部門である日経BP社の社長に就任した。ちなみに小城高時代は3年間総務委員を務めたとのこと。





更なる発展に

黄城会会長 岩松 要輔

平成22年度を迎え、全国各地の会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のことと拝察申し上げます。

常日頃の同窓会活動において、ご支援ご協力をいただき厚く感謝申し上げます。

昨年度は、母校の創立110周年というお目出度い大きな節目にあたり、物心両面からご協力いただき、同窓の絆の強さと母校に対する心の熱さを改めて感じました。

本年度の黄城会総会は、恒例の通り去る5月3日に母校体育館において千数百名の会員が集まり、盛大に開催されました。

高校37回卒業の皆さんが実行委員の担当となり、梶原聖司実行委員長のもと熱気みなぎる大会運営をしていただきました。

アトラクションとしての書道パフォーマンスは新しい取り組みでし

た。小城高校応援歌に合わせた「黄城」の文字の大書や、旧制小城中学校2代目校長佐野安磨氏作詩の謡曲「桜岡」の謡いにあわせた、地名・山川名の力強い臨書がありました。総会当日のエネルギーは、この1年の黄城会活動の原動力となることと思います。

われわれ黄城会の素晴らしい財産である青木繁作『朝日』が、「青木繁と清流祇園川」展の中心作品として、小城市立中林梧竹記念館で公開されています。期間は5月1日～6月6日の37日間です。『朝日』が描かれたのは明治43年のことで、旧制小城中学校の美術教師平島信を頼り小城に身を寄せていた時にあたります。今年は丁度100年目にあたります。青木は、平島教師の自宅に滞在し、近くの祇園川で釣りを楽しみ、「小流れに、釣を流して手をたばね、肥前

の国は、小城に釣りする」と一句を残しています。多くの人々に『朝日』が鑑賞されることは意義があることと思います。

さて、ここに新規会報第2号をお届けします。14,000部を印刷し、会員の皆様にお届けします。昨年お届けした新規会報第1号は、大方の好評を得ることができました。この会報によって黄城会活動の様子をご理解いただき、より一層のご協力ご支援をいただきたいと思います。黄城会の活動目的は、同窓の絆を強くすると共に母校小城高校を支援することです。同窓の絆を強くするための種々の試みを行い、母校の後輩を支援してまいりたいと思います。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝を黄城の地から祈念いたしております。



母校の近況

学校長 荒谷 博幸

平成22年度を迎え、黄城会会員の皆様におかれましては、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。皆様には常日頃から小城高等学校の教育発展のためにご支援、ご協力を賜り心からお礼申し上げます。また、創立110周年記念式典には、多大なご支援をいただき、盛大に終えることができましたこと、厚くお礼申し上げます。

本校の現状についてご報告させていただきます。

まず平成22年度大学入試結果についてご報告致します。国公立大学合格者数は98名、現役は90名でした。その中でも、九州大学が2名、熊本大学薬学部が2名現役で合格しました。

次に、部活動について報告しま

す。運動部、文化部ともにすばらしい活躍でした。運動部は柔道部女子が様々な大会での優勝を筆頭に、多くの部がベスト4のすばらしい結果を残し、学校だけでなく地域の大きな活力となっています。また、文化部では書道部が全日本高等学校書道コンクールで5位に当たる優秀校に選ばれました。このように校是である「文武一途」のもと生徒たちは頑張り、活躍しています。

学校行事については、開校記念行事の天山登山は、生憎の天気で上宮までしか上れませんでした。生徒数700名余りに対して、640名以上が上宮まで登っていきました。オンラインワン活動は、1年生の職業研究、学部・学科研究、2年生の自由課題研究、3年生の小論文と、例年

に比べて、1年次の職場訪問を、職業研究、学部・学科研究に変更し、内容もなかなか充実したものになってきています。黄城会の事業としてご支援頂いている黄城育英奨学生は、学校生活の様々な場面で模範となり勉学に励んでおります。

以上、本校の近況について概要をご報告させていただきました。今後、私達職員一同、本校の生徒がこの激動の次第を乗り切っていけるような力をつけるべく、校訓の「創意、挑戦、誠実」を合い言葉に、日々の教育活動に邁進していきたいと思っております。

最後になりましたが、黄城会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念いたしまして近況報告とさせていただきます。



合格だ!優勝だ!

平成21年度
学業報告・部活動の成績

平成21年度合格状況

【国立大学】北海道大学1／筑波技術大学1／千葉大学1／広島大学1／島根大学3／山口大学5／九州工業大学3／九州大学2／福岡教育大学1／佐賀大学31／長崎大学13／熊本大学7／大分大学7／宮崎大学3／鹿児島大学1／琉球大学1

【公立大学】下関市立大学4／愛媛県立医療技術大学2／北九州市立大学1／福岡県立大学2／長崎県立大学4／熊本県立大学2／大分県立看護科学大学1

【私立大学】国際基督教大学1／中央大学1／明治大学1／法政大学2／國學院大学1／東洋大学1／東海大学4／金沢工科大学3／同志社大学1／立命館大学1／関西学院大学1／京都外国語大学2／近畿大学2／桃山学院大学1／神戸学院大学1／岡山理科大学3／福岡大学59／西南学院大学10／中村学園大学2／西南女学院大学7／九州産業大学7／九州共立大学1／九州女子大学2／久留米大学51／福岡工業大学9／筑紫女学園大学3／国際医療福祉大学3／西九州大学17／活水女子大学4／長崎純心大学2／長崎国際大学7／崇城大学4／熊本学園大学2／立命館アジア太平洋大学1／九州保健福祉大学3／九州医療福祉大学2／そ

の他の大学19

【短期大学】私立短期大学18

【その他】高等看護学校14／医療系専門学校9／その他専門学校23／就職3

平成21年度部活動の成績

【運動部】

1. 柔道部

○第47回佐賀県高等学校総合体育大会 女子団体優勝（九州・全国大会出場）／女子 52kg級 1位 倉富 尚子（九州・全国大会出場）／57kg級 2位 塚本 晶（九州大会出場）／63kg級 1位 坂井 友美（九州・全国大会出場）／2位 脇山 美佳（九州大会出場）／70kg級 3位 永田 翼／78kg級 3位 笹川絵里子

○平成21年度金鷲旗高校柔道大会／女子の部 敢闘賞 脇山 美佳

○全国高等学校柔道大会／連続出場 柔道部・女子

○平成21年度佐賀県高等学校新人体育大会／女子団体優勝／57kg級 2位 塚本 晶／63kg級 優勝 坂井 友美／70kg級 優勝 永田 翼／78kg級 優勝 笹川絵里子

○第13回九州高等学校新人大会／63kg級 3位 坂井 友美

○第32回全国高等学校選手権佐賀県柔道大会／女子団体優勝／57kg級

2位 塚本 晶／63kg級 優勝

坂井 友美／70kg級 優勝 永

田 翼

2. バドミントン部

○第47回佐賀県高等学校総合体育大会／女子団体3位／男子シングル

2位 高木 俊充（九州・全国大会出場）

○第34回佐賀県高等学校学年別大会／第1学年男子シングル1位 高木 俊充

○平成21年度佐賀県高等学校新人体育大会／女子団体3位／男子シングルス3位 高木 俊充／男子ダブルス3位 富永・高木組

3. ソフトテニス部

○H21年度春季佐城地区高等学校大会／男子個人3位 富永 勇輝・深見 恒介／女子個人3位 真崎 陽子・江島万紀子

○第47回佐賀県高等学校総合体育大会／女子団体3位／女子個人7位 真崎 陽子・江島万紀子（九州大会出場）／男子個人5位 富永 勇輝・深見 恒介（九州・全国大会出場）

○H21年度秋季佐城地区高等学校大会／男子団体2位／女子団体1位
○平成21年度佐賀県高等学校新人体育大会／女子団体3位／男子団体3位

4. 水泳部

○第41回西日本年齢別選手権水泳競技大会／女子15・16歳 50mバタフライ 第1位 久我 桃子

○第60回佐賀県選手権水泳競技大会／女子50mバタフライ 第1位 久我 桃子／女子100mバタフライ 第3位 久我 桃子

○第18回佐賀県スプリント大会／女子50mバタフライ 第3位 久我 桃子

5. バスケットボール部

○第47回佐賀県高等学校総合体育大会／女子3位



書道部

- 第40回全国高等学校選抜優勝大会
佐賀県大会／女子3位
- 第40回全国高等学校選抜優勝大会
佐賀県大会／優秀選手賞 山田
美緒

6. 剣道部

- 第31回大麻旗争奪高校剣道大会／
敢闘賞 豆田悠紀見
- 第60回佐賀県東部地区高等学校剣
道大会／女子団体3位
- 平成21年度佐賀県高等学校新人大
会剣道競技大会／女子団体3位

7. 野球部

- 第25回唐津市長旗争奪高等学校野
球大会／優勝
- 第14回唐津地区高等学校野球新人
大会／準優勝
- 第20回唐津地区高校野球1年生大
会／第2位

8. 弓道部

- 多久聖廟釈菜奉祝第1回孔子の里
弓道大会／優勝 林口 慶亮
- 平成21年度佐賀県高等学校弓道1
年生錬成大会／男子団体第2位／
男子個人第1位 寺尾 賢太

9. 陸上部

- 第47回佐賀県高等学校総合体育大
会／走り幅跳び 第6位 藤澤
弘明（北九州大会出場）
- 第1回国見台陸上競技記録会／共
通女子800m 第2位 北島美也
子／一般・高校男子100m 第1位
西村 優人

【文化部】

1. 吹奏楽・合唱部

- 第50回佐賀県吹奏楽大会／Aパー
ト 銀賞
- 第33回佐賀県高等学校音楽コン
クール／ピアノ部門 銅賞 志岐
梓

2. 書道部

- 第10回高校生国際美術展／奨励賞
本田りずむ
- 第38回全国高校書道展／大賞 本
田りずむ／特選5名／準特選7名
- 第8回岐阜女子大学全国書道展／
大学賞 原口ゆり子／奨励賞 塚
田 愛梨／優秀賞3名／秀作賞4
名／努力賞4名



平成21年度全国高等学校総合体育大会出場 柔道部 脇山美香選手

- 佐賀県書道教育連盟主催第37回七
夕書道展／知事賞 本田りずむ／
特選 野崎 千里／秀作6名／佳
作5名

- 第61回佐賀県高等学校所席大会／
特選 本田りずむ・橋本 沙樹・
成住 美咲・陣内 愛・塚田
愛梨・野崎 千里・古賀 春香／
奨励賞4名／秀作2名

- 第20回中林梧竹翁顕彰所席大会／
梧竹顕彰賞 陣内 愛／第20回記
念賞 本田りずむ／特選1名／奨
励賞2名／秀作3名／佳作5名

- 第21回佐賀県高等学校総合文化祭
／特選 成住 美咲・陣内 愛・
塚田 愛梨／奨励賞4名／秀作4
名

- 第4回尚綱大学高校生書道展／尚
綱学園同窓会花桜会賞 野崎 千
里／特選 本田りずむ・貞松め
ぐみ／準特選7名／秀作3名

- 第34回佐賀県高等学校臨書大会／
特選 本田りずむ・橋本 沙樹・
成住 美咲・陣内 愛・塚田 愛
梨・貞松めぐみ・野崎 千里・山
口 亜祐・古賀 春香／奨励賞11
名／入選20名

- 第15回全日本高等学校書道コン
クール／全国優秀校／部門最高賞
橋本 沙樹・陣内 愛・塚田
愛梨／準部門最高賞 本田りず
む・成住 美咲・陣内 愛・原口
ゆり子・山口 亜祐

- 第31回読売学生書展／特選 本
田りずむ・橋本 沙樹／佐賀市長賞
成住 美咲

- 第55回佐賀県書道教育連盟主催

「書初書道展」／特選 塚田 愛梨

3. 美術部

- 第28回川上峽春祭りスケッチ大会
／金賞 一般の部 武富 湜斗／
銅賞 一般の部 前田絵里奈／入
賞 一般の部 田中 美里

- 第62回佐賀県高等学校スケッチ大
会／特選 武富 湜斗／奨励賞2
名

- 2009国際中高等学生公募展／金賞
南里 夏美／銀賞 松岡 裕
美・前田絵里奈／特選 武富 湜
斗・村里 優季

- 第21回佐賀県高等学校総合文化祭
ポスター原画部門／佳作 大家
彩加／美術工芸部門 準特選 武
富 湜斗・有瀬 浩美／入選3名
／佳作1名

- 第53回西日本読書感想画コンク
ール／特選 副島 彩花／佳作4名
- 小城市地下道壁画制作／地域防犯
への貢献 美術部

- 第46回佐賀県高等学校デッサンコ
ンクール／特選 武富 湜斗／準
特選 有瀬 浩美／奨励賞 1名

4. 放送部

- 平成21年度アバンセ杯放送コン
クール／審査員特別賞 古賀 愛
夏

5. その他

- 第21回佐賀県高等学校総合文化祭
将棋新人大会／個人戦優勝 田代
健

- 第10回佐賀県高等学校スピーチコ
ンテストストーリーテリング部門
／第3位 坂下 裕美

支部総会報告

2009年度



関東支部

10月18日 グランドプリンスホテル新高輪 約120名

総会としての第1部は、黄城会の重さを感じさせる凜とした空気の中にも、大きな満足感に包まれ終了しました。

第2部は最長老で前支部長の古賀興平先輩の乾杯のご挨拶で楽しい懇談会がスタートしました。最初に21年度本部総会の担当をしていただいた高校36回生の上京者の皆様が、21年度の本部総会開催に対する御礼の挨拶を行い、また、高校37回生の上京者が次回22年度本部総会開催へのご協力をお願いを行いました。特に高校37回生は、黄城会本部総会担当としての重い責任を痛感し、真剣なまなざしで先輩へのご挨拶を行いました。



黄城会の集いと銘打った懇談会は、高校58回生の中野かおりさんの楽しい歌で始まり、郷土佐賀の名産品の銘柄当てクイズでおおいに盛り上がりしました。皆様が昔からよく食べられた羊羹や丸ボーロ、日本酒の銘柄を当てるといった難しい問題でしたが正解が続出し、先輩方の故郷の味を今でも忘れないという姿に胸が熱くなりました。会場内では、小城町農産物直売所はたるの郷の郷土の名産品の即売会も開催されましたが、こちらも大人気であつという間に商品は完売してしまいました。なかなか東京では手に入らない懐かしい名産を前に楽しそうにお買い求めいただく笑顔が印象的でした。

重責を感じつつの今回の懇談会の幹事でしたが、高校37回生皆の同じ思いが「この会の幹事ができて本当に良かった、小城高校でよかった」でした。

卒業して25年近くが過ぎ、忘れていたあの日、あの頃の想いに帰ることができました。今までなかなか会

うことのなかった旧友との再会、素晴らしい先輩方との出会い、楽しいひと時。黄城会でなければ経験できない素晴らしい体験をさせていただきました。この素晴らしい経験を次の人たちにつなげていく責任も同時に負ったような気がします。

(高校37回 於保 誠之)

中京支部

9月27日 百楽 40名

来賓として、大野事務局長・荒谷小城高校校長・佐賀県人会植原会長、関東・関西支部、36回・37回の実行委員の皆さん方多数の参加を得て、総勢40名、今回のアトラクションとして「津軽三味線」の演奏・謡があり好評でした。実行委員の皆さんには、早朝より最後までいろいろとお手伝い戴き、感謝、感謝、盛会の内に無事終了。

反省、例年参加人員の減少傾向にあり、増員へ向け何が必要か、特に21回以降の方々の参加が少なく今後を危惧しています。

黄城会への関心度向上の為、試行錯誤の繰り返し、情報発信の強化に努めたいと思っています。

関東・関西支部へ出向き、ミニ同窓会感覚での総会参加を呼び掛けていますが上向きません。本部、各回期役員の皆さんの呼び掛け強化を期待します。



関西支部

10月17日 ホテルプリムローズ大阪 51名

七田義孝副会長・荒谷博幸校長先生、久本中京支部長が来賓で御出席。36・37回卒の実行委員代表の皆さんにもご参加頂き賑やかに開催致しました。1部では支部長挨拶、来賓のご挨拶に続き、支部事務局報告・会計報告・新支部役員の選出が行われました。2部は大衆演劇の小沢真太郎親子によるハラハラドキドキのアクロバットや華麗な女形のショーを楽しみました。3部では佐賀の懐かしい物産を景品にしてピン

ゴ大会を行いました。最高潮に宴が盛り上がったのは15回卒安藤先輩の佐賀弁を駆使した物産販売でした。巧みな話芸に皆さん腹を抱えて大笑い。物産も完売し先輩方の笑顔に幹事の苦労もいっぺんに吹飛びました。黄城会に初参加で幹事の大任を仰せつかり、最初は大変後悔しましたが、無事大役を終えた今、貴重な経験と沢山のご縁を頂いた事に感謝の思いでいっぱいです。

(高校36回 小倉 津子)



関門・北九州支部

10月24日 リーガーロイヤルホテル小倉 20名

準備幹事会を8月3日八幡ロイヤルホテルに於いて開催いたしました。課題として、会員の高齢化・新規加入者の皆無状態・約250名の在住者への対応・福岡支部への編入等問題点を協議。本年も開催日を土曜日に決定。前回同様、開催案内を過去10年以内に参加実績の方51名に絞って実施等、経費の問題も考慮し実施計画を立案いたしました。

毎年開催ホテルを交通の便を考慮し小倉駅前になっています。関門・北九州支部の同窓生は、北九州市・飯塚市・遠賀郡・下関市・日豊線の各地と範囲は広く広範囲にわたっています。



本年は、秋真っ盛りの10月開催。黄城会本部岩松会長、学校より水田教頭先生にご参加頂きました、実行委員会より36回・37回の実行委員5名の参加を得て、支部同窓生13名と併せささやかではありますが20名での支部総会となりました。

幹事の方々には参加者勧誘促進のためご協力を頂きました。

当日は第37回卒高橋亮子さんが店長をされている「ほたるの郷」より郷土の物産を展示即売して頂き全員で参加の記念に懐かしい品々を買いました。

福岡支部

10月10日 福岡国際ホール 130名

永きに亘り福岡支部をまとめてこられた高5回小柳平八郎前支部長並びに前副支部長の高6回伊東浩平氏、高4回小川勇紀子氏が退任、新たに高8回武富一三支部長が選出され、高8回池田義實氏、高14回養田喜美代氏が副支部長として委嘱されました。

レセプションでは、高校17回卒の津村さんの祝舞にてスタート、思い出話に花が咲く中、古いアルバムから拾った思い出のスライドショーにてタイムスリップ。フィナーレを飾ったのは実行委員でもある高36回の岡さんによる「ベリーダンスショー」。なかなか見る機会のないベリーダンスに会場は大盛り上がり。荒谷校長も一緒に踊られて盛り上げに役買って頂きました。

総会を開催するにあたり、物心両面にて支えて下さった多くの方々に感謝すると共に、次回10月9日に多くの皆様に元気にお会いできる事を祈念致します。

(高校36回 音成 芳和)



唐津支部

2月7日 唐津シティホテル 34名

当日は、黄城会より岩松会長、小城高校より荒谷校長先生、佐賀支部の宮原副支部長、江里口幹事長の来賓の皆様と、総会実行委員の36回生、37回生、それに支部会員をあわせた合計34名の方の参加により、支部総会および懇親会を開催いたしました。

総会では、白石支部長より歓迎のあいさつと支部活動についての報告の後、岩松会長より黄城会の活動状況、荒谷校長先生より母校の近況についての話をいただきました。

つづいての懇親会のアトラクシ

ョンでは、久留米よりお越しいただいた内田正次さんと当会5回生の吉田隆治さんによるアコーディオン演奏で楽しんでいただきました。佐賀支部総会に出演されていたのを見て、唐津にも来てもらえないかとお願いしたところ、快く引き受けていただきました。また、当支部の田中ヨシコさんによる日本舞踊、江口善子さんの参加するチームによるフラダンスショーも披露していただき、盛会となりました。



佐賀支部

11月13日 グランデはがくれ 181名

当日はあいにくの雨模様ではありましたが、旧中や高女の先輩方をはじめ180名を超える参加があり、佐賀支部総会は盛大に開催されました。

総会式典の後の懇親会では、黄城会の先輩である吉田隆治さんのアコーディオン演奏や北村尚志さんの歌声に酔いしれ、チャリティじゃんけんゲームやお楽しみ抽選会を楽しみ、37回生宮原君のパフォーマンスで大いに盛り上がりました。

佐賀支部は50年以上の長きにわたって、地元で黄城会を支える伝統ある組織です。今回参加して、諸先輩方とお話をさせていただく中で、黄城会の“絆”を強く感じました。そして、私も黄城会の一員として、この“絆”を次の世代へと引き継いでいきたいと思います。

(高校37回 中村 孝幸)



多久支部

2月14日 北多久公民館 約100名

約100名の会員の皆様と、黄城会本部・学校関係者の皆様のご出席を賜りました。第1部の総会は、古賀支部長の挨拶が行われました。続い

て支部相談役である横尾多久市長の挨拶を受けました。そして来賓を代表して、黄城会会長岩松要輔氏、学校長荒谷博幸先生、大野雅央事務局長からご挨拶を賜りました。その後、古賀通雄支部事務局長の事業報告がなされました。最後に旧中、高女、高校の順に校歌を斉唱し第一部を締めくくりました。第2部のアトラクションは、西多久音頭の披露とまた多久市で活動をされているザ・ダイナマイツによるバンドショーが行われました。ザ・ダイナマイツさんの生演奏で、「新高校歌」「高校3年生」を合唱して盛り上がりしました。総会の最後は、飯盛市議の応援エールと吉浦副支部長の万歳三唱で締めくくりました。

(高校36回 田中 昌樹)



県庁支部

8月25日 グランデはがくれ 55名

本部からは、岩松要輔会長、小城高校からは、水田哲也教頭先生、佐賀支部からは山田浅雄支部長、そして県議会議員の伊東猛彦議員、藤木卓一郎議員の方々の参加となりました。久しぶりに、賑やかな総会となり会場が沸きました。特に若い職員が、各部まんべんなく参加し、新しい顔ぶれもあったことも幸いし、話も弾みました。折しも、今回の総会は、わが母校の110周年記念式典を秋にひかえ、プレイベント的なものとなり、意義深い支部総会になったと感じました。この総会を契機に更に楽しい雰囲気での交流そして教育委員会を含めた黄城会の県職員みんながともに大きな輪となって、さらなる親睦が深まることを確信しました。母校と黄城会の発展を祈念し、報告とします。

(高校24回(県庁支部長)馬場 光彦)



祝 卒業50周年を祝う

素晴らしい思い出に感謝

4月29日から5月5日までのゴールデンウィークが1日も雨に降られず好天だったという記憶は誰にもありませんでした。天候不順で三寒四温のリズムが崩れ、なかなか春がやって来なかったことを思えば素晴らしい穏やかなゴールデンウィークでした。

そうした中、私たちは卒業50年という大きな節目を迎えました。43歳のとき総会の実行委員を務め、同時に第1回の全国同窓会を開催しました。それから25年が経ち、正に「光陰矢の如し」でした。その間、50歳・55歳・還暦・63歳・66歳と佐賀・関西・関東と開催地区を変えながら6回の全国同窓会を開き、その度に130名前後が集い賑やかに旧交を温めてきました。

そして今年、卒業50年の節目に永ノ間昭彦君を実行委員長に決め“最後の”全国同窓会を開催し、恒例となっている黄城会総会の折の“ステージ登壇”に元気で臨もう、と北海道をはじめ全国から130名を超える友が集まりました。

さて、総会前日の「最後の全国同窓会」…

総会前日（2日）に同窓会を開催するのは、それなりの理由がありました。1つは、炭鉱閉山等による一家転住で泊まれる実家等のない友もあり、従って同窓会会場で宿泊し翌日の総会後帰路につけば1泊2日で往復が可能になること。2つ目は、同窓会に集まったみんなを翌朝貸切バスで運べば参加者の殆んどを総会に案内出来る…と考えたからです。

同窓会は、唐津ロイヤルホテルでの開催でした。

15時から受付、16時30分から2班に分けて写真撮影。そして、同窓会は17時のパワーポイントを駆使した映像投影から始まりました。私たちが生まれた昭和16年・17年から今日までの歴史を織り交ぜた田中将之君・中原光明君の企画・制作による12分超の大作でした。参加者全員の高校3年生時代の顔写真が映し出されるとスクリー

ンに釘付けになり、映像が終了した時のどよめきが感動の大きさを表していました。

宴会・懇談会に入り話に花が咲けば20時までの3時間はアツと言う間に過ぎていきました。

校歌斉唱の直前、サプライズプランとしてフォークダンスを敢行。勿論みんなには内緒の計画でありました。内川久里代さんの音頭で50年振りのオクラホマミキサー…みんなの笑顔の何と素晴らしかったことか。高校時代は手を触れることさえできなかった筈なのに50年も経てば“驚掴み？”で楽しんだ“超”賑やかな1コマとなりました。二次会そしてお開き後の談笑も時間と歳を忘れて続いていきました。

翌5月3日も五月晴れ。午前9時に母校到着…

黄城会総会と懇親会…

遠来の友は殆んどが初めての総会でしたが、開会から最後までしっかりと楽しみました。北海道から参加の山田純三君、関東支部の副会長を務める黒澤知子さん他7名の「校旗入場」は実に堂々としたものでした。

そして、既に50名以上の物故者がいる中で、しかも全国どこを探しても見当たらないと思われる「同窓会総会での卒業50年のお祝い」のステージに元気に立てたことは何より素晴らしい思い出となりました。

1960年3月卒業の私たちを代表して小柳平一郎君が挨拶。創立60周年記念に作られた新制小城高校の校旗も50年を迎えたことや若者が政治に関心を持ち安保闘争が盛んだった社会背景等を織り交ぜ振り返りながらの素晴らしい挨拶でした。



新高12回生 井手 良祐



また、総会会場の壁面に展示された書道部や美術部の生徒の作品と共に「卒業50周年記念展示」のコーナーを設けていただき12回生の作品を展示させて頂きました。

昨年110周年を迎えた母校から「文化祭と体育祭にOBも参加を」との要請に応じて展示した作品を改めて展示させて貰ったもので、写真の井上茂君、書の本義人君・大賀須佳子さん・加賀山義子さん、絵画の樋渡和利君・麻田満代さん達の見事な力作が並びました。特に本義人君の書は展示後に黄城教育会館に寄贈が決まりました。

総会終了後、37回生にセットいただいた黄城教育会館の2階で懇親会を開催。弁当をつつきビールを酌み交わしながら賑やかに和やかな時間が過ぎていきました。

懇親会は14時に終了。今後も絆を深め元気を分かち合っていくことを約束して「最後の全国同窓会」は幕となりました。

それにしても素晴らしい思い出を刻んだ2日間でした。こうした機会を与えてくれた母校並びに黄城会、そして実行委員を務めた37回生の皆さんに心より感謝申し上げ、母校と黄城会のますますの御発展を祈りながら2日・3日の概略を述べて終りにします。

有難うございました。

川柳で詠む○高校時代○と☆今☆

○ 青雲の気概に燃えていた拳
○ 飛んできたチョーク先生に投げ返し
○ フォークダンス好きな人とは組めぬまま
☆ 遠い日のときめきに逢うクラス会
☆ イケメンの彼にもあったはずの髪
☆ 結ばれた同級生が十組いる



小城高校での出会い

倉富 尚子（長崎大学教育学部）

私は、高校生活の中で、一番努力をしてきたといえることは、部活動です。小学生の頃から続けてきた柔道を高校でも続けながら、勉強も頑

張っていきたいという気持ちがあったので、小城高校を志望しました。入学してからは、勉強面では、たくさん



レベルの高い練習についていくのが精一杯であったりと、上手い出来ない時もたくさんありました。しかし、勉学と部活動のどちらか1つだけ頑張るのではなく、どちらも努力をすることで、生活にもメリハリができ、より充実した生活を送ることができました。

高校生活最後の大きな大会

である高校総体の県大会では、女子団体で優勝をすることができました。私は、個人でも優勝をすることができて、それまで共に努力してきた仲間と掴んだ優勝は、私が今まで生きてきた中で一番嬉しい経験となりました。仲間や先輩方に恵まれ、そして、素晴らしい先生のご指導を受けることができて、本当に小城高校に入ってよかったと思っています。

部活動を引退した後の受験でも、部活動を通して養ったものを生かすことができました。受験の際も、たくさんの先生方が協力し、手助けをしてくださいました。私は、教育学部に合格することができたので、これから、私も、小城高校の先生方のように、生徒一人一人のために一生懸命になれる先生を目指し、大学でもしっかりと頑張っていきたいです。

3年間で振り返って

伊東 和樹（長崎大学工学部）

私は長崎大学工学部に推薦で合格することができました。

高校に入学して今までさまざまな経験をできたことや、先生方に支えてもらったおかげだと思います。

高校で私を成長させたことのひとつは部活動です。私は3年間剣道部に所属しており、同学年の男子では1人でした。先輩方が多くいたので先輩方が抜けるととても不安で、みんなを引っ張っていけるか心配でした。けれども、先輩方や顧問の牛島先生などにアドバイスなどをしてもらい無事に終えることができました。

もうひとつは勉強でした。私が受

験というものを意識しはじめたのは、2年生の3学期の頃でした。先輩方のセンター試験が終わり、さまざまな声を聞いて「まだ、1年ある。」と思っていました。しかし、先生たちは「みんなが勉強をしていない今が差をつけるチャンスだ。」といつも口にされていました。すると、周りの数人が少しずつ受験勉強を始めていたので、私も授業の予習復習から始めました。

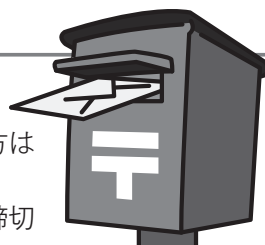
3年生になると授業のペースがさらに速くなり、復習の量が一段と増えてとても大変でした。9月頃になると推薦という言葉に気になり始め、挑戦したいと思いまし



た。しかし、面接練習などはとても緊張し、なかなか上手いきませんでしたが先生から励ましの言葉もらい気持ちが楽になりました。入試本番では、緊張して戸惑うこともありましたが自分の力を出し切りました。合格発表の日、自分の番号を見つけたときは涙が出そうでした。

私は高校3年間で、嬉しいこと、苦しいこと、いろいろな経験をしました。その経験を生かして大学でも充実した学校生活を送りたいと思います。





投稿

『私の人生論』 夢成就—タイムリーな恩人との出会い—

高校2回卒 靄丸 益也

先に高卒2回生による卒後50周年記念誌「絆」で我が人生の「夢」に関する駄文を投稿してより早や10年、母校への感謝と若人後輩諸氏へ奮起を願いたく、その切っ掛けとなればと思い投稿に至った次第です。

100年に一度と云われる経済危機を迎え、第2次大戦中の学生々活及び敗戦による外地より引揚げ後の小城中・高校での青春時代を考える時感慨一入だが、私には戦中戦後の方が「得難い人生経験」をしたと今では痛感している。当時を振り返っても、克くぞ乗り越えたものだと思う。

人にはその人なりの哲学があり、目標もあるであろう。私の場合も健康第一に、夢追求のヒューマニストでありたいと思い続けて来た。夢を抱く事は最も大切な事だが、如何にその実現の為に努力し挑戦したかが肝要であろう。その為には健康体が前提条件だ。

人生は波瀾万丈、又「筋骨きの無いドラマ」の仮令通り、可成りの激変が起るものだ。

私の夢も最後に目指したのがテニスの全日本チャンピオンであり副産物として健康体の回復と、此れ迄永生き出来ている事だと思う。

今ここに感謝の気持の一端として、全日本優勝の賞状と記念写真を母校へ進呈致します。願くはテニスに限らず、各方面での後輩諸氏の活躍を期待したい。

実は私の兄の一人は野球の夢を追いつけ、昭和27年に読売巨人軍に入団、3年後の1軍出場を目前に怪我で退団（その後4年以内に長嶋、王が入団）したのだが、果して満足であったのか、幸福な人生だったのか、疑問である。夢破れたる時点での状況分析が肝要ではなかったのか、未だに正解を見出せない。

因に私の夢暦を披瀝すれば、敗戦

で引揚げ後、人生を否定したい気持を持った事も一度となくあったが、丁度何人かの親友が出現した事で救われた。最初の夢、それは作曲家（音楽選択で宿題の作曲が良かった為）、次がテニスのデ杯選手（今考えると不可解）、学生時代はテニスに熱中、腕もそれなりに上げたが、社会人（銀行員）となってからは逆にテニスから遠去かり、公私共に多忙な悪いリズムの日々を送った。結果32才の時、入院4ヶ月の闘病生活を送る事となる。

私の再出発がこの時から始まったのである。退院時U院長（私の恩人の一人）と交した条件の1つに「休日には必ずスポーツをする事」であった。体重も58キロ迄落ち、停年迄の勤務も自信が持てない状態だった。忘れていたテニス復活を決意し、家族の協力を得て、テニス中心の1週間の生活リズムを確立し忠実に励行した。当初はラリーも15分がやっとだったが、後には学生時代のように2時間程度のラリーも苦にならない迄に快復した。40才代には小さな試合にも出れる様になった。

その頃大学での1年先輩のY氏からのアドバイス「もっと大きな夢、九州、全日本を目指そう!!」に動かされ、共に九州毎日選手権や全日本ローンにチャレンジしたのである。以後全日本ローンは地元開催だった為、単複に可能な限り職場の都合、協力を得て出場した。単は殆んど毎年申込んだが、複では決った相手が居らず、この30年間で数人と各1回宛組んで出場した。

全日本は全国から強者が集る為、出場人数も予め制限されており、一昨年等は複で8組、単では12人（勿論

5才毎の年令別となっている）だった。一昨年は単に申込み、出場出来たのはラッキーだった。

これ迄、単ではこれと云った成績を残せなかったが、複では良きパートナーに恵まれ59才の時は準優勝（パートナーはデ杯候補選手だった方）し、又翌60才では遂に池田氏より声を掛けて頂き夢の優勝実現、コートで跳び上り、強く池田氏と握手した事を昨日の様に鮮明に覚えている。（試合前日に半時間程練習し翌日本番に臨んだ）最高の試合だったと思う。（相手チームは東京大会でも準優勝していた）

今我が人生を顧みる時、運命論を否定出来ない事と、夢の実現には、必然的な人との出会いが在る事も学習する事が出来た。

私の場合も、U医師、Y先輩、池田氏、それに家族の協力あってこそこの感がある。

「夢」これからは憎い癌と斗いつつ、地元の小中学生に硬式テニスのコーチをし、出来れば全日本出場と、社会人となった当時テニスの夢を失くしていた頃に、何かと生きる力を与えて呉れたK氏との再会と、我が誕生の地の再訪等あり、それ迄は未だ終止符を打つ訳にはいかないと思っている。

最後に母校及び黄城会の益々の隆盛と、会員の皆様の御健勝、御多幸をお祈りし、駄文を閉じます。



池田氏

靄丸

トピックス

学校医石井倫平先生 平成22年度県政功労者知事表彰受賞

石井先生は昭和48年5月1日より現在に至るまで、佐賀県立小城高等学校学校医等を歴任し37年間の長きにわたり、生徒数1,000人近い大規模校の学校医として、学校保健向上の発展に貢献し、ご尽力をいただいております。このたび本校における保健教育活動の実績が評価され平成22年度県政功労者知事表彰を受賞されました。おめでとうございます。

つきましては先生の受賞の栄誉を祝すとともに永年にわたるご苦勞に対してご慰勞申し上げたく平成22年5月20日、増田羊羹総本舗本店を会場に祝賀会が開催されました。

石井先生のプロフィール



石井 倫平 (いしい りんぺい)
昭和5年2月21日生まれ(80歳)

昭和29年3月 久留米医科大学卒業
昭和45年4月 小城町に石井外科医院開業
昭和48年5月 小城高等学校 学校医現在に至る

主要略歴 (元) 多久市小城郡医師会会長並びに佐賀県医師会理事
(現) 多久市小城市医師会顧問

トピックス

応援団復活!?



110周年を記念し9月13日開催された小城高祭(体育祭)で応援団OBが演舞を披露されました。かつてのワルガキも今はいいオジさんですが、迫力は往年のままでした。後輩にも応援団の心意気が伝わったことと思います。

トピックス

第7回ゴルフコンペ

優勝 堤 謙太 氏!!

毎年恒例の第7回黄城会ゴルフコンペ(佐賀支部主催)が5月16日(日)大和不動カントリークラブに於いて開催されました。総勢47名の参加があり堤謙太氏の優勝で幕を閉じ無事終了することができました。

なお上位入賞者の方々は次の通りとなっております。開催にあたって準備等ご尽力いただいた方々誠にありがとうございました。

優勝	堤 謙太	6位	安藤 誠
準優勝	藤木卓一郎	7位	閉籠 辰巳
3位	東島 裕治	8位	森永 和宏
4位	小山 晃	9位	冬野 審一
5位	鳥井 寛敏	10位	池田 浩一



おことわり

多数の原稿をいただきましたが紙面の都合上掲載できませんでした。申し訳ございませんでした。来年以降は紙面を増やしより多くの原稿を掲載できるように考えておりますのでよろしくお願いいたします。(編集部)

黄城会総会を終えて

2010年黄城会総会実行委員会
実行委員長 梶原 聖司（高校37回）



2010年 創立111周年黄城会総会
が「絆」～110年の志を礎に新たなる
未来へ～のスローガンのもと約1300
名の多くの皆様のご参加をいただき
盛会に開催することができたことを
嬉しく思うとともに安心感と達成
感に満ち溢れております。これも、
ひとえにこれまでご協力をいただき
ました皆様方のご指導とご支援であ
り深く感謝申し上げます。

誠にありがとうございました。

私たち37期生は、一昨年の10月に
36期生の先輩から声かけをいただき
実行委員会を立ち上げ、昨年は「饅
頭会」今年は「黄城会総会」の成功
に向け何度となく集まり打ち合わせ
やりハーサルを行い本番を向かえる
ことができました。最初集まった時、
今！何が不足しているのか？何が
大切なのか？等話し合い、高度成長
期に育ってきた私たちは、物には満
たされてきたが、本来あるべき、古
き良き文化や心が希薄になり、人
と人のコミュニケーションが大切に
はないかと考え、「絆」を今回のメイ
ンスローガンに決定しました。
昨年の総会以降、岩松会長や黄城会
の役員の皆様方をはじめとした多く

の方々より教をいただき本当にあ
りがとうございました。特に36期生
の先輩方には、幾度となくご指導や
ご協力を賜り心より感謝申し上げま
す。また、各支部総会に参加し本総
会の紹介や協力、支援等をお願い
し、その時「37期頑張れ」と熱いエ
ールをいただき心強いなと感じたと
ともに、黄城会の組織力を肌で感じ、
伝統の大きささと重さに身が引き締
まり、さらに気合が入ったところで
す。今年は38期生と共に本総会の企
画・運営を行い、高校や生徒の皆さ
んの協力と卒業50周年の先輩方の
絵画や書により、本式典に花を添え
ていただきました。これも黄城の伝
統、伝承、絆ではないかと感じたと
ころです。

また、私事ではありますが、110年
の歴史の中において、祖父母から息
子の4世代にわたり、黄城の地で学
び、この伝統に触れることが出来る
幸せを実感したところでもあります。

なお、今年は新聞広告や弁当箱を
時代のニーズに合った形に変更した
り、音響設備は、本体育館の施設を
利用し、その全てを（操作を）放送

部の生徒に委ねる等、これまで先輩
方が作り上げてこられた伝統（意志）
を基礎に少しずつ時代にあった形で
後輩（未来）へ伝承して行ければと
考え試行的に行いました。

アトラクションでは、三日月書道
愛好会さんによる「書のパフォーマンス」
や小城高吹奏楽・合唱部による
演奏、中野かおりさんのミニライ
ブを行い恩師の先生方や我々37期
生も一緒に謡うなど、黄城の地につ
どう一員として、お互いの友情の確
認と新しい出会いを作ることが出来
ました。

最後に、本総会の実行委員会を務
めたことにより、25年ぶりに同級生
が再会し、お互いが各々の社会環境
の中で頑張っている姿を励みに今後
の人生において大いに切磋琢磨し成
長し続けようと確認し合う機会を
作っていただいた黄城会に感謝する
とともに、全国の同級生が各支部
の中で活躍して行くことが我々の使命
ではないかと感じたところでもあり
ます。伝統ある黄城会の益々の繁栄
と、皆様方のご健勝を祈願いたしま
して37期生代表のお礼および挨拶と
します。

饅頭会を終えて…

2011年黄城会総会実行委員会
実行委員長 北島 清孝（高校38回）



5月3日の饅頭会では至らなかつ
た場面も多々あったかと思いき
ますが、ご臨席くださった先輩方のお
かげで滞りなく無事終えることが
できました。御礼申し上げます。

実のところ昨年までは、連休初め
の佐賀新聞に黄城会総会の広告が掲
載されても「今年も黄城会総会の時
期か。」と気楽に協賛広告に目を通
すだけでした。ですが実際に自分自身
が今年の1月から携わり始めると、
だんだんと饅頭会の日が迫ってくる
につれ「見落としては無いだろうか。
当日はちゃんと計画どおりに事を運
ぶことができるだろうか。」という不
安と焦りが募ってきました。そうこ
うするうちに前日になり、37期の先

輩方との最終打ち合わせを終え「後
はどうにかなるさ。」と最後は開き直
りで、当日を迎えました。

総会の日、最初に感激をしたのは
受付をしていた時に目にした場面
です。卒業後何十年も経た先輩方が同
級生どうして集まって受付を済ませ
られ、とても楽しそうに連れ立って会
場に行かれる姿を多く拝見し「自分
が卒業した小城高校はこんなにも結
束が固い学校だったのか！」と改め
て実感しました。開会してからは
ずっと会場の後ろで進行を見ていま
したが「引継式」の時刻になり、会
場内の多くの先輩方に見守られる中
を、旧制中学・女学校・新制高校の
伝統ある3つの校旗を先導するとい

う光栄に浴し、たいへん緊張した一
方「自分たちもこの黄城会の一員な
のだ。」と、とても晴れがましく、
また誇らしい気持ちでステージに上
がりました。挨拶を終えて退場後、
その高揚した気分を近くにいた友人
たちに話したところ、引継式では全
員が私と同じ深い感慨を持ったよう
でした。

これからも伝統ある黄城会の一員
である事を片時も忘れずに、来年の
黄城会総会も今年同様、盛会裡に終
える事ができるよう、38期生一丸と
なって頑張っていく所存です。

今後とも先輩方のご指導、お力添
えを賜りますよう、何卒よろしくお
願い申し上げます。

平成22年度黄城会役員一覧

▷会長＝岩松要輔（高10回）▷副会長＝七田義孝（高15回）志藤茂子（高16回）川副春海（高26回）▷顧問＝荒谷博幸（校長）宮崎道広（教頭）▷理事＝石井倫平（中45回）内野正久（高3回）永池安彦（高4回）川副富男（高5回）横田宏（高6回）兵働文雄（高7回）大野雅央（高8回）真子輝雄（高11回）小柳平

一郎（高12回）谷口征一（高13回）森永四郎（高14回）梅崎茂弘（高16回）松尾剛之（高17回）野田和良（高18回）小野茂（高19回）野田豊秋（高20回）田中丸晴雄（高21回）坂井一弥（高22回）堤覚三（高23回）古賀正人（高24回）圓城寺猛（高25回）横尾俊彦（高27回）井手美保子（高28回）堤雅彦（高29回）岡正幸

（高30回）安永正（高31回）伊東猛彦（高32回）水田信（高33回）真崎俊夫（高34回）松尾直人（高35回）西岡聖師（高36回）▷監事＝梶原千尋（高5回）金丸盛登（高9回）井手真喜子（高29回）▷事務局長＝大野雅央（高8回）▷庶務＝山崎史子（高41回）▷会計＝大場知子（高37回）

支部役員一覧

【関東支部】▷支部長＝吉村久夫（高6）▷副支部長＝齊藤正治（高7）南里幸太郎（高8）黒澤知子（高12）▷会計監事＝南川政俊（高6）江里口宗男（高7）▷幹事長＝橋崎進（高14）▷事務局長兼常任幹事＝川副隆之（高32）▷顧問＝古賀興平（中37）藤永清子（女27）江頭清昌（高4）

【中京支部】▷支部長＝久本哲義（高11）▷副支部長＝庭木利秀（高7）吉島大策（高7）服巻鴻志（高9）川島公子（高11）▷事務局長＝江里口多美雄（高21）▷事務局次長＝堤淳（高40）▷会計＝梅谷雅和（高17）▷顧問＝中尾久徳（中42）中野大典（中43）平山重行（中43）鶴修三（高2）

【関西支部】▷支部長＝木崎剛明（高5）▷名誉顧問＝黒岩澄雄（中41）▷顧問＝山田正信（高7）▷副支部長＝服部登代

子（高4）米田数英（高10）▷会計監査＝米満正夫（高校9）▷事務局次長＝古賀和良（高校31）中村貴代香（高校31）

【関門・北九州支部】▷支部長＝野中栄三（高3）▷副支部長＝橋間啓人（高9）▷事務局＝永山重隆（高13）▷幹事＝諸富通子（高4）大石ちづき（高4）荻野惇子（高6）山口孝美（高29）梶原三千代（高19）安達悦子（高23）菊池起久子（高31）宝蔵寺和夫（高35）

【福岡支部】▷支部長＝武富一三（高8）▷副支部長＝池田義實（高8）養田喜美代（高14）▷幹事長＝御木英毅（高11）副幹事長＝山口順蔵（高18）堺八千代（高25）▷監事＝大塚朝夫（高3）▷顧問＝松尾健次（中36）井手ミツ（女16）牧瀬忠俱（中37）吉田英介（高1）小柳平八郎（高5）伊東浩平（高6）小川勇

紀子（高4）

【長崎支部】▷支部長＝中村利夫（中37）▷副支部長＝大場勝彦（高11）

【佐賀支部】▷支部長＝山田浅雄（高2）▷副支部長＝古賀渡（高4）梶原千尋（高5）安藤真行（高15）宮原史枝（高15）▷幹事長＝江里口勉（高16）

【唐津支部】▷支部長＝白石元秀（高7）▷副支部長＝永瀨明則（高16）▷事務局長＝鮎川正博（高28）

【多久支部】▷支部長＝古賀栄子（女23）相談役＝横尾俊彦（高27）▷顧問＝井上正昭（高2）▷副支部長＝尾形節子（高4）吉浦啓一郎（高15）牛島和廣（高17）▷幹事長＝内野正久（高3）▷事務局長＝古賀通雄（高23）

【県庁支部】▷支部長＝馬場光彦（高24）▷事務局長＝大坪広幸（高27）

平成21年4月～平成22年3月までの物故者（敬称略）（会期）氏名〔住所〕

（旧中26）伊東操〔小城市〕（29）池田清吾〔佐賀市〕（31）相原秀雄〔福岡市〕（31）糸山茂〔荒尾市〕（33）新道憲治〔長崎市〕（33）溝口敏夫〔練馬区〕（34）西山實男〔佐賀市〕（34）曲淵喜久次〔京都市〕（34）村山平〔三養基郡〕（35）小園四朗〔武庫市〕（35）西岡保〔豊中市〕（35）永瀨清〔福岡市〕（36）天ヶ瀬憲治〔多久市〕（36）甲斐直方〔朝倉郡〕（37）中村晴貞〔小城市〕（38）深川巖〔横浜市〕（39）江口祐一〔福岡市〕（40）北島敬憲〔佐賀市〕（40）野中高徳〔北九州市〕（41）池田義男〔小城市〕（41）大家元夫〔小城市〕（41）土橋春夫〔西東京市〕（42）久保貢〔奈良市〕（42）古賀正弥〔横浜市〕（42）柴田紀郎〔大津市〕（42）中島典昭〔古賀市〕（43）富永隆男〔多久市〕（43）

永瀨久男〔さいたま市〕（43）諸永朗〔伊万里市〕（44）真子義勝〔小城市〕（46）久我文雄〔多久市〕（46）山口信之〔嬉野市〕（47）大家政好〔小城市〕（47）手塚泰男〔小城市〕（高女7）山下静江〔福岡市〕（8）西村ヨシ子〔唐津市〕（9）薬師寺由紀枝〔世田谷区〕（10）田淵ツヤ〔鎌倉市〕（11）高祖マツヨ〔佐賀市〕（12）今田智加子〔福岡市〕（12）三根ミエ〔福岡市〕（14）井上チヨ〔福岡市〕（16）古賀玉代〔佐賀市〕（16）穂山八重子〔佐賀市〕（17）於保千春〔松戸市〕（20）畠中初枝〔品川区〕（22）川原智恵子〔佐賀市〕（22）谷田恭子〔多久市〕（23）笹原規子〔山形市〕（23）岸川スミ〔多久市〕（24）菊池清子〔門真市〕（24）野中ノブ子〔大分市〕（25）

早木齊子〔堺市〕（27）水田和枝〔佐賀市〕（27）村山サヨ子〔小城市〕（高校1）堤浩造〔佐賀市〕（2）池田裕一〔横浜市〕（2）今泉源太郎〔多久市〕（2）村田英昭〔佐賀市〕（2）富永豊文〔加古川市〕（3）川副勝人〔川崎市〕（3）松岡博〔小城市〕（3）森三郎〔横浜市〕（4）岩井一義〔東大阪市〕（4）武富利文〔小城市〕（6）真島春江〔葛飾区〕（7）吉町文彦〔町田市〕（8）木下巧〔小城市〕（8）小出美津江〔唐津市〕（8）下陽子〔久留米市〕（8）深町秀美〔世田谷区〕（8）吉木久司〔多久市〕（10）深町豊重〔福岡市〕（12）大坪久雄〔横浜市〕（14）村田政直〔横須賀市〕（24）鍋島勢津子〔小城市〕（本定4）小林敏彦〔大村市〕

寄 贈

（平成21年4月～平成22年3月）

寄附金 黄城会辰巳会（高校11回）卒業50周年記念 100,000円
佐賀支部主催第6回黄城会ゴルフコンペより 20,000円

昨年からリニューアルした黄城会会報「黄城」、いかがでしたでしょうか？ 昨年は江里口小城市長、横尾多久市長の対談、今年は吉村久夫東京佐賀県人会会長（元日経ＢＰ社社長）のご講演、巻頭特集「黄城人」に登場頂ける先輩方後輩は、ま

だまだたくさんいらっしゃると思います。今後も、全国的に活躍する「黄城人」をどんどんご紹介していきます。よろしくお願いします。また同封の会費のお願いですが、会の財政逼迫の折、納入のほど、切によろしくお願いします。

平成22年度 支部総会予定日

*平成22年度の支部総会開催日をお知らせいたしますので、こぞってご参加下さい。
(時間、会場等は各支部へお尋ねください)

支部名	予定日	氏名	電話	支部名	予定日	氏名	電話
関東	10/16(土)	幹事長 檜崎 進	042-324-5857	長崎	未定	副支部長 大場 勝彦	095-823-0637
関西	10/17(日)	事務局長 内田 昇	072-824-4742	唐津	2/6(日)	事務局長 鮎川 正博	090-4997-1372
中京	10/3(日)	事務局長 江里口多美雄	052-502-8831	佐賀	11/5(金)	幹事長 江里口 勉	0952-31-9236
関門・北九	未定	幹事長 永山 重隆	093-771-0081	県庁	未定	事務局長 大坪 広幸	0952-66-4312
福岡	未定	幹事長 御木 英毅	092-565-7926	多久	2/13(日)	事務局長 古賀 通雄	0952-75-3629

小城高校創立110周年記念事業募金結果報告

28件 1,494,000円

上記の募金について、母校に寄付をさせていただきました。会員皆様のあたたかいご協力に心より感謝申し上げます。

有り難うございました。

尚、110周年記念誌に余分がございますので、ご必要の方は事務局までお申し出ください。

平成21年度 黄城教育会館育英奨学生

平成21年度の黄城教育会館育英奨学金は3学年合わせて15名でした。3年生の進学状況は佐賀大学2名、九州大学・熊本大学・長崎大学にそれぞれ1名ずつ決まりました。

ホームページをリニューアルへ

数年前から、懸案となっていた黄城会のホームページを、本年度～来年度の事業として、リニューアルを行いたいと計画しております。

これまでのホームページは、コンピューターの納入会社のご厚意で作成した暫定的なもので、これを、卒業各年次のホームページや各支部のホームページとリンクさせた形で大幅に充実させていきたいと思っております。また、ブログの形式で、日々の連絡事項や会のトピックスなども積極的に掲載できるよう計画しております。予算の関係上、開設は来年度になる可能性が高いのですが、よろしくお願いします。

会期便り、募集します

各卒業年次別の会期便りを昨年から会報に同封しております。

昨年は、20回期ほどの会期の幹事（理事、評議員のみならず）さんから、会期便りを制作して頂きました。今後、同級生の身近な通信を、幹事さんに作って頂き、配布していこうと計画しております。制作は大変でしょうが、よろしくお願い申し上げます。

編集後記

今年度も黄城会総会が無事終了しました。まだ2回しか経験していませんが、多くの方が出席され、各回期の方々がこの日を楽しみにされているのが素晴らしいと思えました。事務局より当日は会費の受付を会場の後方にて行なっております。

来年度もお目にかかれればと思います。(事務局)

